

課題名	85 常緑果樹の品種選抜	分類	②
	1) カンキツ新品種 '早香' の特性		
試験研究年次	60~7年 (継続)		
I 目的 農林水産省で育成されたカンキツの第5回配布系統について、県内における適応性を検討し、優良系統を選抜する。			
II 試験方法 1 来歴 昭和47年に農林水産省果樹試験場口之津支場において、'今村温州' に '中野3号' もんかを交配して育成され、昭和59年に口之津9号の系統名で適応性検定試験に供され、昭和63年みかん農林6号 '早香' として登録された。 2 試験場所 園芸研究所果樹ほ場 3 地形、土壌条件 標高150m、緩傾斜地、花こう岩、砂壤土 4 植栽年次 昭和60年4月、カラタチ台1年生苗を植栽 5 土壌管理 草生、樹冠下しきわら 6 施肥量 平成元年度 (5年生)、窒素22.5、りん酸16.0、カリ18.0kg/10a			
III 主要成果の概要 (品種の特性) 1 樹性：樹の開張性は中程度で樹勢はやや強い。枝葉はやや密生し、刺も生じる。葉はもんかより大きく、今村温州より小さい。 2 結実：樹令3~4年生で結実を始め、収量は樹齢と共に増加する。 3 果実：果実は150g程度で、果形指数135~140の偏球形である。果皮の色は橙色でもんかと同程度である。11月中下旬に着色始め、12月下旬にはほぼ完全着色となるが、緑色が残る。果皮は薄く、剥皮は容易であるが、浮き皮となりやすい。果肉は柔らかく、果汁は多いが、じょうのう膜はやや厚い。糖度は12度以上で高く、クエン酸は12月下旬には1%以下となる。果実は弱いもんか臭があり、食味が優れている。しかし、含核数は比較的多い。 4 耐病性：かいよう病には比較的強い。 (栽培上の留意点) 1 '早香' は、年内に収穫出荷できる早生のもんかタイプのカンキツとして県内のカンキツ産地に適応できるが、高品質果実の生産のためには温暖な地域が望ましい。 2 '早香' は花粉の多い品種との混植を避け、できるだけ少核果を目指す。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 樹齢に伴う樹の大きさと収量

	62年	63年	1年
樹 令(年)	3	4	5
幹周(cm)	7.8	11.0	13.8
樹容積(m ³)	0.5	2.8	2.9
収 果数(個)	4	12	61
重 重量(kg)	0.5	1.8	9.0

第2表 果実品質の年次変化

年次	着色程度	果重	果肉歩合	糖度	可溶性固形物	クエン酸	甘味比	含核数
		g	%		g	g		
62年	5.7	136	74.3	11.2	12.48	0.89	14.0	13.4
63	4.8	165	75.4	12.4	13.34	0.82	16.3	22.8
1	3.6	149	77.3	12.2	13.66	0.87	15.7	22.0
平均	4.7	150	75.7	11.9	13.16	0.86	15.3	19.4
太田 ^{ホウカン}	8.2	178	76.5	11.2	12.19	0.96	12.7	3.8

注) 果実分析日は毎年12月20日前後、太田^{ホウカン}は63年12月26日分析

第3表 貯蔵中の果実品質変化 (1年)

分析日	着色程度	果重	果肉歩合	糖度	可溶性固形物	クエン酸	甘味比
		g	%		g	g	
12.19	3.6	149	77.3	12.2	13.66	0.87	15.7
1.19	9.4	149	73.1	13.0	14.31	0.69	20.7
2.22	10.0	148	75.1	13.2	14.18	0.66	21.5

注) 12月19日採収後20℃で1週間予措して5℃で貯蔵

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 '早香'は12月に成熟する^{ホウカン}タイプの早生カンキツで、県内カンキツ産地に適応できる品種の一つとして位置付けられる。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 樹令にともなう樹並びに果実特性の変化
- 2 果皮の着色促進技術、採収後の追熟法

VII 資料名

- 1 62～元年度常緑果樹系統適応性・特性検定試験成績書
- 2 62～元年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書